

# 博物館だより

## よみがえる「赤糸威鎧」

あか  
いとおどしょろい

### — 国の重要文化財 —

#### —八百年まえの鎧兜—

##### 「赤糸威鎧残欠」

「赤糸威鎧残欠」は稀にみる美術品として、国的重要文化財に指定されています。博物館では相馬市の鎧師橋城さんに依頼し、残欠を手がかりとして、元の姿を再現した複製品を備えることになりました。



復元された赤糸威鎧の前面

甲冑の研究者で、日本甲冑武具研究保存会評議員をしている橋さんは、都々古別神社に通つて鎧の残片を細かく実測し、全国の類品を調査して技法や材料を確認したうえで、忠実な復元製作を進めました。

この鎧は、七・四センチ×四・〇センチの鉄と革の小札を、一对二の割合で重ね、これに漆を二十六回も塗り重ねたうえ、茜染めの太い赤紐でとじ

ます。大袖の部品の図がかかれています。大袖・御嶽神社の赤糸威鎧と肩をならべる最高級の鎧とされています。平安時代末期に中央で作られた作品と考えられます。

#### 製作赤糸威鎧



立派に完成した鎧の背面と製作者の橋誠さん